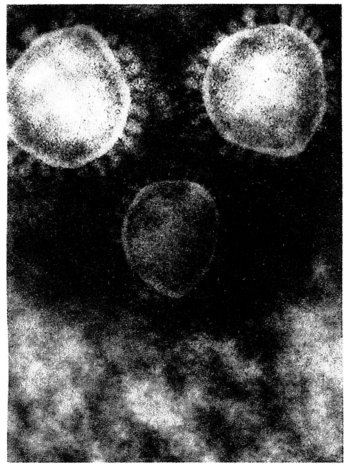


明るい医療

新津総支部 Tel 0250-22-6851
新潟市秋葉区東金沢1459番地1
白山舟江沼垂穂支部 Tel 025-224-6105
新潟市中央区入船町3-3629-1
沼垂事務所 Tel 025-248-8486
ときわ総支部 Tel 025-226-6565
新潟市東区空港西1-15-17
坂井輪総支部 Tel 025-269-6682
新潟市西区寺尾東3-1-19



新型コロナウイルスワクチン 正しい知識が最良のワクチン

下越病院 麻酔科 市川 高夫 医師



正しく感染を恐れ対応することが必要

いよいよ新型コロナウイルスのワクチン接種が始まります。日本では今までもいくつかのワクチンに対する「副作用」や「後遺症」について問題になることがあり、ワクチン不信を持っているヒトが多い国とされているようです。

「正しい知識が最良のワクチン」と言われるように、感染防御法も含め、正しく感染を恐れ対応することが必要です。人類を感染から守り不安がほぼなくなつた疾患に「天然痘」「麻疹・はしか」「小児麻痺・ポリオ」「風疹」「子宮頸癌」などがあります。天然痘は地上からなくなりましたが、ポリオ、はしか、風疹、子宮頸癌などは政治的社会的問題を中心とした理由からまだ完全に地上からなくなつていません。おそらくこれらは正しい知識をもつて、全世界でワクチン接種がなされれば地上から撲滅できる可能性があります。



高い疾患です。今までのワクチンは、ウイルスを弱くしたものの（弱毒生ワクチン）や薬剤で活性をなくしたもの（不活化ワクチン）がほぼ全てでした。少し前から細菌などにウイルスの重要なタンパク質を作せた組み替えタンパク質ワクチン（B型肝炎ワクチンなど）も出てきました。考え方はウイルス全体（生ワクチン、不活化ワクチンなど）を入れるのではなく、抗原として認識するために必要なウイルスの一部だけを使う方法に変わってきました。ここまではすでに実際にヒトに投与された実績のあるワクチンでした。

今回採用されたファイザーやビオンテック、アストラゼネカと言われる会社の製品は今までヒトに投与されたことのない方法で作成されました。この考え方は海外ですでに20年以上の歴史があるのですが、日本ではいろいろ問題にさらされたため、非常に研究が遅れてしまっています。必要なタンパクを体外で（細菌などで作らせる）作製し精製し（組み替えタンパク質ワクチン）投与することから、ウイルス遺伝子を解析

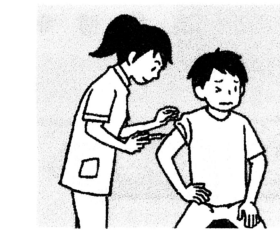
し対象とするタンパクを作る命令が書かれた設計図部分だけ（ウイルス遺伝子全体でなく）をヒトの細胞に入れ、ヒトの細胞で抗原となるウイルスタンパクを作らせ、免疫を付けるという方法です。入れる遺伝子の設計図は、必要なタンパクを作る設計図だけ（mRNAまたはcDNAという極めて小さいほんの一部の遺伝子）です。そこからウイルス全体ができて、ヒトのもとでのDNA内に組み込まれてしまうということはありません。大体10数分から数時間程度で分解されてしまいます。その間にこの設計図をもとに新型コロナウイルス

感染防護を続けワクチン接種をおすすめします

今までのワクチンで問題となった症状を以前は副作用といいましたが、現在は副反応といい、身体が免疫を立ち上げるときの反応として捉えます。それには全身倦怠感、軽度の発熱、局所の痛み・腫れなどがあり、ほとんどのヒトに大なり小なり起こります。

変異ウイルスが出て、遺伝子解析を行うだけで約2週間ですれに対応できるワクチンが作ることができません（生ワクチン、不活化ワクチンはそうはいきません）。

重大なアナフィラキシー反応は15分から30分以内に発生する全身皮膚の発赤、皮膚粘膜の浮腫を伴い、呼吸困難、血圧低下となりうる危険な全身反応です。起こる人はこのワクチン製剤に含まれている成分（ポリエチレングリコールなど）に感受性があるヒトであり、日本人の多くがかかっている花粉症やアトピーとは関係はありません。蜂アレルギー、そばアレルギーはアナフィラキシーの多くの原因ですが、これも今回のワクチン製剤とはあまり関係ありませんが注意を要するヒト達であることは間違いありません。このアナ



**下越病院のMRIを更新
地域協同基金の増額にご協力ください**

下越病院では昨年12月、15年ぶりとなるMRI装置（約1億円）を更新いたしました。大きな事業です。健康友の会員のみならず地域の皆様のご協力を、よろしくお願いいたします。

各事業所、健康友の会事務局で受付けています。



DirectDigital

ファイラキシー反応が起こっても接種会場には必ず医師がおり、対応に問題が発生しないようになっていきます。世界でも今回のワクチンによるアナフィラキシーで死亡者はいません（ノルウェーなどでの接種後の死亡原因はアナフィラキシーではなく不明とされているようです）。

子宮頸癌ワクチンでの若い女性を中心とした長く続く全身倦怠感や筋肉痛はWHO、日本小児科学会からも頸癌ワクチンとの因果関係は否定されており、日本独自の状況です。ニュージランドでは男性にも投与が進み、このウイルスが原因の子宮頸癌のみならず、陰茎癌、肛門癌も激減しており、国全体からこのウイルスの駆逐が進行しています。周りの人のネガティブな説明でなく、支えてあげる対応で、多くのヒトが心配することなく接種を受けれる必要があります。

〔3面へ続く〕